

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (26) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(26)—

1. 始めに

前報(25)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と Garrad401 を使用します。Garrad401 は、Garrad401 の再構成(17)で報告のとおり、下記の再生経路となっています。

Garrad401→My Sonic Stage 1030→Maraz7 タイププリ→TruPhase

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。また、Garrad401、My Sonic Stage 1030、Maraz7 タイププリには、Crystal E を接続しています。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

ドイツグラモフォン MG2248

モーツアルト Serenade No.9 (セレナーデ・ポストホルン)

Serenade No.6 (セレナーデ・ノットルナ)

カール・ベーム指揮ベルリンフィル

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、セレナーデとは言いながら、フルオーケストラでのベーム指揮による構成の堂々とした演奏で、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続したことにより緻密さが増したようにも感じられます。

Garrad401 の再生では、演奏については LINN LP-12 の再生と同様ですが、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続したことにより、粗さが取れてきた

ように感じられ、意外にダイナミックな表現もでてきています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入などの総合的な効果として、ベーム指揮による構成の堂々とした演奏が味わえますし、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続したことの効果もあるようで、LINN LP-12 と Garrad401 それぞれの特徴が活かされています。

以上